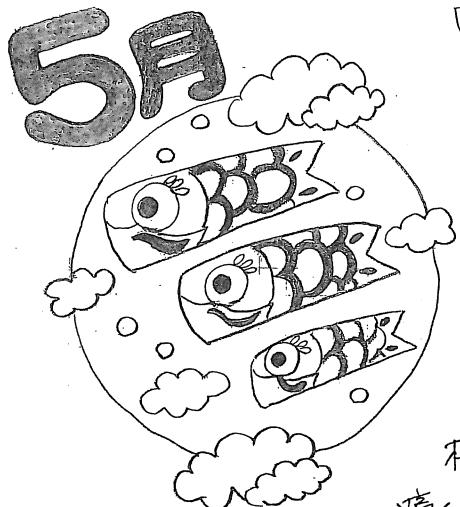


利根日石新聞

2009年11月1日創刊 令和3年5月号

第000140号

発行

利根日石株式会社 TEL:0278-24-1635
本社販売管理課 FAX:0278-23-7980

新緑の5月!! ゴールデンウイークも、お出かけしたい気持ちを押さえて家でまったり~ふと、山菜が食べたいよ~ たらの芽の天ぷらでうどんが食べたいです~!

新年度がスタートしてもう5月も何だか毎日バタバタと忙いが4月下旬に次男が、医療関係者でコロナワクチン接種しました。すでに孫の友達の娘さんも接種しその後の様子を聞いていたので「心配でしたか?」、当日は注射の後が痛く、翌日はその部分が腫れて前日よりも痛みは増しても、熱も出ず、間接の痛みも全くなく思っていたよりは軽く済んだようです。友達の娘さんは、次の日に熱が出て、身体中の関節が痛くなり大変だった様ですが、その数日ですぐに良くなつたそうです。私はいつワクチンを接種する時期が来るのか心配ですか?、その日まで手洗い・消毒・マスク・一定の人との距離をとり気をつけねば!



長年乗っていた相棒の愛車を、ついに買い替えました。

13年前に新車でやってきたタントは、下の娘がまだ小学生でした。おねえちゃんは中学生だったので、部活の送り迎えに活躍し、2人の高校受験、大学受験もいきました。その頃、愛犬も毎日のように車に乗せて、あちらこちらの公園に行っていた。思い入れのあるタントでしたが私の運転の将来を考え、乗り換えるなら今だ!と思ったのです。

今の車って、色々な機能がついててびっくりです。1番感動したのは登録してあれば、乗車した時に携帯がなからたら、「忘れていませんか?」って聞ってくれるんです。2番にすごいと思ったのが、前車が発進して、気づかなかた時もピッピッと教えてくれます。その他にも走りながら、左に寄り過ぎたり、セカーライン踏んだりで、ピッピ。ピッピ。車に怒られますか...。

これからNEWタントにアシストされたから、事故のないよう運転していきます。

2050年
カーボンニュートラルに向けて

昨年10月の臨時国会で、菅総理大臣は所信表明演説の中で突如、「2050年カーボンニュートラル宣言」を発表しました。ご承知の方もいると思いますが、これはCO₂(二酸化炭素)の排出量を極力減らし、植物の光合成や回収貯蔵技術などによる吸収量と排出量を均衡に(ニュートラルに)するものです。その3ヶ月後、今年の通常国会の施政方針演説では「2035年 新車販売の電動車100%」を表明。さらに、その3ヶ月後、4月22日に開催された気候変動サミットで菅総理は「2030年 CO₂排出量を46%削減」と表明しました。

最初の突然の「2050年カーボンニュートラル宣言」で号砲を鳴らし、産業界や世論の動きを見ながら、徐々に、より具体的で、より短い期間でのターゲットを定めている感じがします。(秋→冬→春、と何故か3ヶ月、季節ごとに)後の総理自信の発言によると、「カーボンニュートラル宣言」は事前に誰にも相談せず行ったそうです。地球温暖化で気候変動が顕著になってきているのは明らかで、世界的にCO₂排出削減の動きが活発になっていることを思えば当然の流れかもしれませんか。長い間、問題とされてきながらも、このタイミングで思い切って舵を切ったのは菅総理の政治決断だと思います。

コロナ対策では後手後手だったのと言われがちですが、ことカーボンニュートラルに関しては趣が違うようです。

私たち、石油製品の販売会社として、非常に難しい状況に来ています。地球環境のためにCO₂排出量を減らしていくかなくてはならない事は十分理解していますが、販売機会が減っていく、しかも人口減少社会の中で、今までにも増して販売量が減っていくことは死活問題になります。特に、「2035年 新車販売の電動車100%」は言い換えれば「2035年ガソリン車販売終了」であり、ガソリンが主力商品であるタント業界に激震が走りました。しかし、そもそもガソリン車のCO₂排出量はEV(電気自動車)に比べてどのくらい影響があるのか?むしろ、CO₂を大量に排出しながら発電している火力発電が8割を占める日本で、EVは本当に地球にやさしいのか?など、「EV=環境にやさしい」という論調には評しいところがあるように感じています。

ガソリン車を始めとする「移動」分野のCO₂排出割合は全体の2割にすぎません。「発電」や「製造」など残りの8割を含めた、産業構造や生活の在り方から見つめ直さないと、木を見て森を見ず、ガソリンだけを悪者にしてCO₂削減は進まない、上滑りな地球環境論になりかねません。

その点では、4月の「2030年 CO₂46%減」では、単純な脱化石燃料だけでなく、再生エネルギー導入拡大や水素技術の開発加速など、CO₂削減に向けた広範囲での動きが報じられて、やや安心しました。

その中で、俄かに脚光を浴びて来たのが「e-fuel」という合成燃料です。これはCO₂(二酸化炭素)とH₂(水素)を原料に化学合成して作る燃料です。化石燃料(原油)と成分は殆ど同じ(燃焼にはカーボン(C)を有する有機物が必要で、原油も含めて全ての燃料にはCとH(水素)で出来ています)ですが、組成(配列)が違うので、燃焼してもCO₂が出てせん。性質が近いので、今のガソリン車にそのまま使えます。しかも原油由来でないでの国内での生産も可能です。電気を使わないで、ただでさえ大変な再生エネ比率の向上にもつながります。夢のような燃料ですか?課題もあります。それはコスト、とくに水素のコストです。水素については火力発電所で化石燃料と混ぜて使うことでCO₂排出量を減らしたり、家庭用燃料電池や「ミライ」などの燃料電池車のエネルギーとしても、今後、需要が高まります。水素は生成過程でのCO₂の扱いによって、3つに分けられています。CO₂を発生させながら生成する水素をグレー水素、発生したCO₂を回収しながら生成されるものをブルー水素、そもそもCO₂が発生しないように生成しているものをグリーン水素と呼んでいます。ブルー水素とグリーン水素を価格で、大量に、安定して供給できる体制が整えば、「e-fuel」により、「移動」で排出されるCO₂の削減が進むだけでなく、産業や家庭でも進みます。

2050年カーボンニュートラルに向けては様々な技術開発、いやゆるイニベーションが必要ですが、中でも水素をとり巻く技術開発と、供給体制の確立がカギになりそうです。